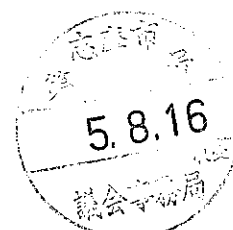


調査研究、研修、要請・陳情活動報告書



令和5年8月10日

志摩市議会議長 様

会 派 名	自由クラブ志摩	代表者氏名	前田 俊基
年 月 日	令和5年7月10日(月)		
時 間	15時00分 ~ 16時30分		
参加者氏名	(自由クラブ志摩) 前田俊基、井上幹夫、山本桂史、山下弘、西崎甚吾、 (公明) 渡辺友里夏 ※合同視察		
用 務 先	住 所	〒989-0512 宮城県刈田郡七ヶ宿町字関 126 番地	
	名 称	七ヶ宿町役場	
目的・内容	目的：人とモノの流れを再生する小さな拠点事業を学ぶ 内容：志摩市と共通した課題の、少子高齢化の進展による人口減少が、小売店舗と雇用機会の減少を招き、さらに、そういった不安が人口減少を助長する悪循環に陥ったなかで、住民等の出資による「まちづくり会社」による賑わい創出策と、行政による交流人口の増加策を組み合わせた意欲的な取り組みを探る。 また、行政による財政支援と情報発信、民間事業者及び住民による賑わいの創出、金融機関による融資など、関係者が協働した取組みと、「まちづくり会社」の自主財源による自立への道筋を探る。 場所：七ヶ宿町役場 ふるさと振興課 住所：宮城県刈田郡七ヶ宿町字関 126 役場庁舎 2 階 TEL：0224-37-2111 (代) FAX：0224-37-2468 企画係 TEL：0224-37-2194 shichi24@town.shichikashuku.miyagi.jp 商工観光係 TEL：0224-37-2177 shichi23@town.shic		

成果・所感

(現状や事業効果)

- ・七ヶ宿町は宮城県で1番人口が少ない町。加えて高齢化率も1位(44.6%)令和5年6月末に人口1,237人、令和26年には、706人と見込まれており、あらゆる人口減少対策を講じ、人口目標を950人としていたい考え。
- ・年齢階層別の人口移動数では、10代～30代の転出超過数が多く、進学、就職等による転出が多いと推測。

参勤交代の本陣が設けられていた歴史を持つ七ヶ宿街道の宿場町であり、主要産業は農業である。また、宮城県民193万人の水を支える「七ヶ宿ダム」は、国の所有であり、その恩恵を得ており、道の駅を含めた公園も点在する自然環境豊かな地域である。町内には、蔵王スキー場や、私立の高等学校もあり、都会に住む人々にとっては魅力あふれる地域である事に加え、仙台市、山形市へのマイカーでの交通は便利な地域である。

また、町長は元町職員(元総務課長)であり、町有資産を含めた内部に精通しており、人間性も優れた人物と見え、町民の一人として無理なく着実な町政運営がなされていると感じた。以下の通り、小さい町で何もない町だからこそ光る取り組みであると感じた。

- ・町民一丸となった「住みたい運動」を実施。小さくても持続可能な「住み心地100点の町」を目指している。合い言葉は「ないもの自慢の町」とのこと。
- ・住民らの支出により、七ヶ宿まちづくり(株)を立ち上げ、町によって設けられた「七ヶ宿くらし研究所(移住定住支援センター)」の指定管理者にもなっている。

※七ヶ宿暮らし研究所は、古民家を改修した田舎暮らし体験施設で、移住交流の拠点であり、地域の人たちの寄り合い処にもなっている。

※移住相談数と移住者数の実績

相談人数	内移住者数	※現在の転出者も含めて数値
H29年: 140人	5世帯 15人	
H30年: 84人	5世帯 12人	
R1年: 99人	4世帯 7人	
R2年: 46人	3世帯 8人	
R3年: 80人	5世帯 11人	
R4年: 52人	4世帯 13人	

※Zoomを活用したオンライン移住相談も実施

※自然体験・イベント情報

- ①ベガルタハウス看板づくり&チア教室
- ②秋の七ヶ宿で稲刈り体験会 昼食付(芋煮・かまどごはん・お漬物)
- ③町民限定 ベガルタ仙台観戦ツアー
- ④七ヶ宿ウォーキング・クリーン・アクティビティ、他

- ・お試し住宅(3棟あり、令和4年は5世帯17名が利用)で町での生活体験を進めており、特に冬の生活が自慢。

※体験料1日500円、ニーズに合わせ町内の案内や畑体験など実施。

- ・移住定住支援としての取り組み

(1)地域についてづくり支援住宅

※新築町営住宅に20年間入居すると、その住宅・土地がもらえる。

家賃月額35,000円 間取りは相談で希望が叶います。

概ね40歳までのご夫婦で中学生以下の子どもがいる方で、地域の活動

に積極的に参加してくれる方。としている。

※現在、16 世帯 66 人が入居済み

(2)住みたい住宅応援制度（定住のための住まい整備に助成金）

①新築・二世帯住宅への改修に、上限 300 万円

②空き家リフォームに、上限 100 万円

③家財処分に、上限 15 万円

(3)お試し住宅、空き家バンク（物件紹介）

※令和 3 年まで選任の職員を充てたことで、契約件数 9 件の実績
現在まで、14 件契約が成立。

(4)定住促進宅地

※子育て世帯を対象に町有地を貸付けし、期間内に住宅を建て居住した後、
無償で土地を譲渡。

(5)就業支援

①無料職業紹介所を移住定住支援センター「七ヶ宿暮らし研究所」に開設
製造業、サービス業、農業法人、介護施設などをつなぐ

②地域おこし協力隊制度（現在 8 名が活躍中）

・七ヶ宿まちづくり（株）2 名 ・無限陶房 3 名 ・起業型 1 名

・農業 1 名 ・林業 1 名

③産業活性化助成

町内で新たな産業の創出や、既存産業の規模拡大等に必要となる修繕費や
広告等に係る経費を上限 200 万円助成。

④町外勤務者へ月 1,000 円分の給油券配布

(6)次世代リーダー定住育成助成金

※消防団など、地域の活動に積極的に参加する事を条件に、30 歳までの若
者世代へ支援。月額 20,000 円

・結婚から子育てまでの支援

(1)結婚

※結婚新生活応援金 新婚世帯に 50 万円

(2)妊娠

※妊娠検診費用助成 14 回分の検診助成券、交通費助成

(3)出産

※子育て応援支援金 第 1 子：30 万円、第 2 子：50 万円、第 3 子：70 万
円

町内在住 1 年以上で高校生までの総額

（支払いは、出産時、幼稚園入学、小学入学、中学入学、高校入学時に分
割）

※子育て応援プレゼント 町オリジナルグッズをプレゼント

※産後ケア事業 6 泊 7 日 9 万円を上限に費用負担

※産後ママ達の交流会（ママ達の声から始まり、月 1 回交流）

(4)0 歳から 6 歳

※紙おむつ費用助成 月 2,000 円 3 歳まで

※医療費 18 歳まで無料

※保育料、給食費無料 他

(5)7 歳～15 歳（小学生～中学生）

※小学校入学時に体育着を支給（移住者にはその都度支給）

※スクールバス完備

※給食費無料

※小学1年生から英語活動

※オンライン塾 他

- ・住民交流会（令和3年度より実施）

移住者同士の交流、地域の方と移住者の交流機会を増やすことを目的に実施。

※畑体験

※歴史研修会 など

- ・交流人口拡大を目的とした拠点整備

①ふるさと体験交流館（廃校利用）

②南蔵王やまびこの森キャンプ場

③賑わい拠点なないろひろば

ミニスーパー（コンビニ＋生鮮食材）、コインランドリー、ガソリンスタンド、図書館、など

④移住定住支援センター（七ヶ宿くらし研究所）

（本市に導入できること）

- ・移住定住支援センターの設置（移住を考える人が集まる拠点として整備）

①移住定住の相談窓口、生活環境・精度・住居等の情報提供

②自然体験・交流イベントの開催

③空き家バンクやお試し住宅の管理

④無料職業紹介所として、市内事業者とのパイプ役

- ・地域おこし協力隊の活用

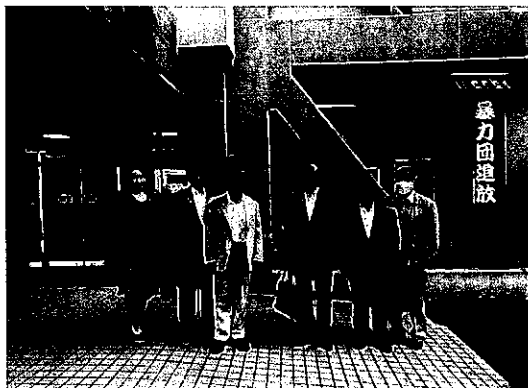
（本市に導入した場合の課題）

- ・空き家バンク情報の不足

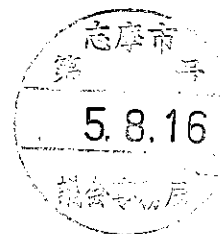
- ・お試し移住の費用負担

- ・費用負担





調査研究、研修、要請・陳情活動報告書



令和 5 年 8 月 10 日

志摩市議会議長 様

会 派 名	自由クラブ志摩	代表者氏名	前田 俊基
年 月 日	令和 5 年 7 月 1 1 日 (火)		
時 間	1 4 時 0 0 分 ~ 1 5 時 3 0 分		
参加者氏名	(自由クラブ志摩) 前田俊基、井上幹夫、山本桂史、山下弘、西崎甚吾 (公明) 渡辺友里夏 ※合同視察		
用 務 先	住 所	〒029-2292 岩手県陸前高田市高田町字下和野 100 番地	
	名 称	岩手県陸前高田市役所	
目的・内容	目的：東日本大震災の経験・復興プロセスを活用した交流活動拠点づくり事業 (空き校舎の利活用) など復興まちづくり等を学ぶ 内容：震災に耐えた空き校舎を活用して、「震災経験と防災」「復興再生」「地域 交流」等の知の集まる世界的拠点へと発展させていく内容を視察し、近い将 来必ず来るであろう「東南海地震」に対する教訓だけでなく、復興と地方創 生を効果的に組み合わせ、発展につなげるための取組みとして参考にしたい。 また、行政だけでなく、企業、大学など官民協働による取組み、協賛に よる、自立への道筋を学びたい。 場所：陸前高田市役所 政策推進室 電話：0192-54-2111 FAX：0192-54-3888 〒029-2292 岩手県陸前高田市高田町字下和野 100 番地		

(現状や事業効果)

訪問に当り、東日本大震災からの復興についての説明を受け、その後、空き校舎を活用し「震災経験と防災」「復興再生」「地域交流」等の知の集まる世界的拠点へと発展させていく交流拠点について教示いただいた。

平成 23 年 3 月 11 日 (金) 午後 2 時 46 分 岩手県沖～茨城県沖を震源とする地震規模マグニチュード 9.0 の地震が発生。陸前高田市での震度 6 弱 (推定)。

津波浸水高 (最大) 17.6m、浸水面積 13 km² (市の面積 232.29 km²)

[被害状況]

- ・死者数 1,559 人 (関連死 48 人)
- ・行方不明者数 202 人 (死亡届は 200 人) 合計 1,761 人
- ・家屋被害 8,035 世帯 (内津波被害 4,065 世帯) ※市内世帯数の 99.5%
- ・その他主な被害

水産物 (鮮魚、うに、海藻類)	被害額 4,500 百万円
水産施設等 (共同施設、養殖施設、動力船)	被害額 14,735 百万円
農地 383ha (田 336ha 畑 47ha)	被害額 7,700 百万円
農業用施設 771 箇所	
被害額	1,350 百万円

[再建状況]

- ・農水産物の推移
 - (1)いしかげ貝 震災前 37,904kg → 震災後 H25 年平均 42,217kg 121%
 - (2)新ブランド米「たかのゆめ」収量 H25 年 33t → R3 年 272t と増加
作付け農家数、作付け面積、収量、共に増加
- ・応急仮設住宅等への入居状況 H23 年 8 月時 2,139 世帯 5,635 人→R3 年 0 人
- ・被災世帯の再建状況 H24.3 末 350 世帯 (9.8%) →R5.3 末 3,144 世帯 (87.2%)
- ・商工会員数 699、被災事業数 604、被災した割合 86.4%
 - 営業再開 298、未再開 7、市外転出 24、廃業 (脱退) 275 計 604
 - ※仮設店舗は R3 年 5 月をもって全建物の解体または譲渡を完了
- ・奇跡の一本松の保存 高さ 27.5m、幹の直径 90cm、樹齢およそ 170 年
 - ※モニュメントとしての保存工事に要した経費 役 1.5 億円
- ・復興に向けた市の予算規模
 - ※H22 年当初予算 11,341 百万 →H26 年当初予算 129,360 百万 (11.4 倍)
 - 主な経費：人件費 2,423 百万→2,329 百万 (96.1%)
 - (単位円) 補助費等 841 百万→3,588 百万 (426.6%)
 - 普通建設事業費 1,985 百万→56,167 百万 (2829.5%)
 - 災害復旧費 13,542 百万
 - 積立金 73 百万→36,350 百万 (49794.5%)
- ・職員体制
 - ※H22 年 415 人 (正職員 298、嘱託 61、臨時 56)
 - H29 年 525 人 (正職員 251、嘱託 81、臨時 47、派遣応援 100)
 - R4 年 351 人 (正職員 223、任期付 25、会計年度任用 88、派遣応援 15)

[復興と地方創生を効果的に組み合わせた取組み]

岩手大学 (国立)・立教大学 (私立) 共同運営による「陸前高田グローバルキャンパス」について

※陸前高田市が廃校となった「旧米崎中学校 (2 階・3 階)」を提供し、両校により開設された交流活動拠点であり、誰でも使える「開かれた場」と謳っている。いわゆるサテライトオフィスであり、研修会場など多用途に利用

可能な施設として運営。

(1)目指すもの

市民と国内外の仲間が集う空間、相互の交流が生まれ、かつ深められる空間として使われ、「大学生が絶え間なく訪れる交流のまち」「防災減災をどこよりも深く学べるまち」を創出。

(2)施設

事務室、資料展示室、教員室、ラウンジ（開放施設）

レンタル：会議室 2 室、講義室 1 室、和室 2 室、多目的室 2 室

ワークショッップルーム 1 室、モンティ・ホール 1 室

長期レンタル：研究室 2 室、シェアラボ 1 室、

※貸出物品も準備あり

展示パネル、プロジェクター、スクリーン、マイク・アンプセット、
電動自転車、等

(3)利用例

◇集会や研修会、ワークショッップの会場

◇学習プログラムの受講

◇若手研究者の研究活動拠点（協働ラボラトリー「シェアラボ」）

◇陸前高田訪問時の活動拠点

(4)運営

陸前高田グローバルキャンパス事務室

(5)集客

ボランティアで参加交流した多くの人たちを「思民」と位置づけ賛助会員を募集している。

また、ボランティア、支援でない新たな関係を目指し、「陸前高田イタルトコロ大学」とした会員組織作りをすすめており、地元の組織や団体、個人などから届いた地元の課題やニーズを「イタルトコロ大学」に登録している大学生の団体や研究室などに提供し、「やってみたい」というところがあればニーズ元を結び付ける、地元のニーズ・シーズと大学生の「やりたい」気持ちのマッチングも進めている。

(本市に導入できること)

- ・ 空き校舎のサテライトオフィス化、シェアオフィス化
- ・ 対象を近隣の大学を対象にする
 - ※ワークショッップ、シェアラボにも対応
- ・ 交流拠点として活用

(本市に導入した場合の課題)

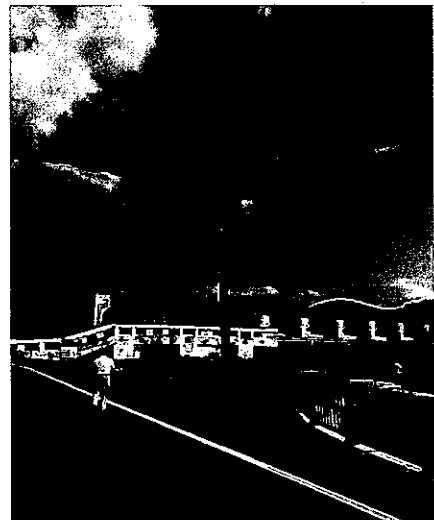
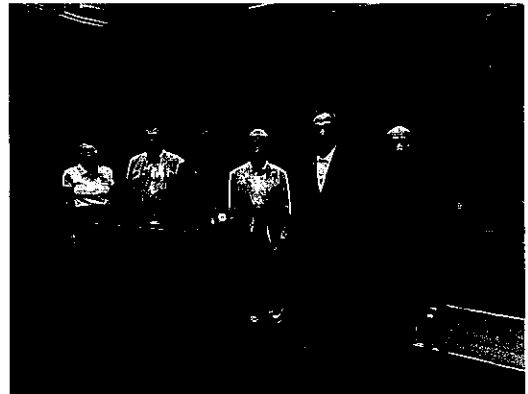
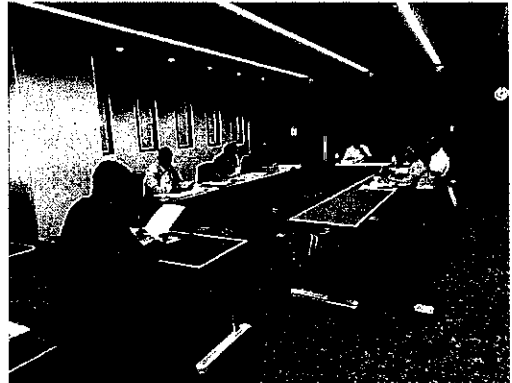
- ・ 改装費用、備品準備
- ・ 誰が考え実行するのか
- ・ 施設の売り込み

(今後の検討)

- ・ 関係部署との意見確認



陸前高田グローバルキャンパス





調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和 5 年 8 月 10 日

志摩市議会議長 様

会 派 名	自由クラブ志摩	代表者氏名	前田 俊基
年 月 日	令和 5 年 7 月 1 2 日 (水)		
時 間	1 0 時 3 0 分 ~ 1 2 時 0 0 分		
参加者氏名	(自由クラブ志摩) 前田俊基、井上幹夫、山本桂史、山下弘、西崎甚吾 (公明) 渡辺友里夏 ※合同視察		
用 務 先	住 所	〒969-3132 福島県耶麻郡猪苗代町大字堅田字五百苅 1 番地	
	名 称	道の駅猪苗代	
目的・内容	目的：防災道の駅としての整備と活用計画を学ぶ 内容：「道の駅猪苗代」は、磐越道猪苗代磐梯高原インターチェンジを降りてすぐの国道 115 号に面して、平成 28 年 11 月にオープン。北には磐梯山、南には猪苗代湖を望む抜群のロケーションを有する立地である。 平成 27 年 1 月には、地方創生の拠点として期待ができると認められ、防災面で開業に先立ち「重点道の駅」選定され、磐梯山の噴火による災害有事に、町役場を補完するための機能も有する。災害用防災倉庫には 200 人が 2~3 日滞在できる食料や毛布を備蓄している事などにより、令和 3 年 6 月 17 日防災道の駅に指定されている。施設内では、地場産品を中心とした物産の販売や、レストラン機能があるが、発電・蓄電設備、BCP の作成など、2025 年までに志摩市が整備すべき点について学びたい。 場所：道の駅猪苗代 住所：〒969-3132 福島県耶麻郡猪苗代町大字堅田字五百苅 1 番地 電話：0242-36-7676 猪苗代町役場 建設課地域振興施設係 住所：〒969-3123 福島県耶麻郡猪苗代町字城南 100 番地 電話：0242-62-2111		

成果・所感	福島県猪苗代町では、後方そびえる磐梯山の噴火に備えた防災意識が高く、過去から噴火（過去 9,500 年間は水蒸気噴火による山体崩落が中心）を繰り返してきた活火山に対する知識と心構えを地域住民が認識し、自治体により繰り返し訓練と「火山防災マップ」（A4 サイズ 15 ページカラー版）などで啓発されているようです。災害時の役場機能を持つことが可能となるワークショップルームにおいて聞き取り調査を行ない、施設内を視察した。 （現状や事業効果） 〔視察会議同席者〕 猪苗代町議会議員 副議長 長澤 操 猪苗代町総務課長 鈴木 善弘 " 総務課防災情報係長 渡部 克宏 " 建設課長 古川 陸志 " 建設課地域振興施設係長 高橋 信仁 猪苗代町議会事務局係長 二瓶 貴之 〔道の駅猪苗代の概要〕 (1) 施設の設置者 猪苗代町長 屋外トイレ及び駐車場の一部の設置者 福島県 (2) 施設の概要 ①敷地面積 32,988 m² ②整備区分 国：道路情報提供設備、案内看板（国道 49 号） 県：駐車場、屋外トイレ、情報提供設備、案内看板（国道 115 号） 町：駐車場、敷地振興施設、案内看板（町道）、ヘリポート 【駐車台数】大型車 16 台、普通車 164 台、障害者用 2 台 合計 182 台 ③建 物 (ア)構 造 木造平屋建て（一部 RC 構造） 大断面集成材 (イ)面 積 建築面積 2,503.80 m² 延床面積 2,035.36 m² 外、県施工の屋外トイレ 165.62 m²（延床面積） (ウ)型 式 切妻屋根 (エ)地域振興施設 地域連携販売力強化施設（レストラン、物産コーナー、軽食コーナー等） 都市農山村総合交流促進施設（農業体験・地域間交流等） 情報コーナー（道路・観光・地域） ※観光協会よりコンシェルジュとして若い女性スタッフを派遣 レスポンスも高くイメージ向上につなげている RC 等（備蓄倉庫・受水槽・高圧受電設備等） (オ)再生可能エネルギー 地中熱ヒートポンプ暖房・太陽光発電 ④特 徴 (ア)あらゆる災害に対応した防災機能 (イ)地域間交流や周辺観光情報提供 (ウ)地場製品の販売とブランド認知度の向上 【参考】平成 27 年 1 月 重点道の駅選定 平成 28 年 5 月 道の駅登録 平成 28 年 11 月 開駅 令和 3 年 6 月 防災道の駅選定 令和 4 年 3 月 防災拠点自動車駐車場指定
-------	--

〔建設事業費〕

(1)事業費

猪苗代町（財源）交付金・地方債・負担金等 約 1,787,000 千円
 猪苗代町一般財源 約 583,000 千円
 町 計 約 2,370,000 千円

福 島 県（工種）左折レーン、屋外トイレ、案内看板

県 計 約 128,000 千円

合 計 約 2,498,000 千円

(2)財源内訳

・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金	農林水産省（地域振興施設）	214,317 千円
・消防防災施設整備費補助金	総務省消防庁（備蓄倉庫）	7,661 千円
・社会資本整備総合交付金	国土交通省（造成・舗装など）	57,600 千円
・二酸化炭素排出抑制対策事業 地中熱・太陽光	日本環境協会（環境省間接補助事業）	54,663 千円
・がんばる地域交付金	総務省（河川土砂採取）	20,157 千円
・次世代自動車充電インフラ整備促進事業費補助金		
次世代自動車振興センター（経済産業省間接補助事業）		10,966 千円
・道路管理者負担金（福島県）	用地費、駐車場工事費用など	68,847 千円
・福島県森林整備加速化・林業再生交付金	福島県（情報コーナー）	11,340 千円
・福島県森林環境交付金	福島県（調節池周り木柵、什器）	4,166 千円
・地方債		1,402,912 千円
・猪苗代町一般財源		583,000 千円

〔運営について〕

(1)指定管理者の概要

計画当初から、指定管理者制度の活用を予定し、指定管理者となる受け皿として第三セクター会社を設立。

・会社設立日：平成 26 年 5 月 27 日

「株式会社道の駅猪苗代」 代表取締役 前後 公（前町長）

・資本金 5,600 万円（猪苗代町、農協、商工会、金融機関）

※内、猪苗代町出資金 5,000 万円（89.29%）

(2)直売所の運営方法（組織設立、手数料等）

「道の駅猪苗代農産物等出荷者協議会」（平成 27 年 11 月 30 日設立）

・会員数： 93 名（令和 5 年 4 月 1 日現在）

・役 員： 会長 1 名、副会長 1 名、監事 2 名、地区委員 3 名 計 7 名

事務局： 株式会社猪苗代

・年会費：3,000 円

※主な活動：先進地研修（近隣道の駅）、研修会

(3)運営状況

指定管理料（猪苗代町負担額）

平成 28 年度 11,415 千円 令和 2 年度 11,000 千円

平成 29 年度 27,396 千円 令和 3 年度 13,750 千円

平成 30 年度 27,396 千円 令和 4 年度 13,750 千円

令和元年度 10,900 千円

(4)出品者等の手数料

道の駅猪苗代農産物等出荷者協議会（町内 15%、町外 20%）

一般納入業者（町内 20～25%、町外 35～40%）

〔来場者・収支状況〕

	来場者数	売上高	当初純利益
・平成 28 年度	57,472 人	171,308 千円	5,617 千円
・平成 29 年度	73,539 人	577,771 千円	55,804 千円
・平成 30 年度	80,154 人	647,645 千円	47,935 千円

・令和 元年度	80,108 人	607,516 千円	38,353 千円
・令和 2 年度	66,075 人	527,575 千円	14,555 千円
・令和 3 年度	69,220 人	610,715 千円	23,156 千円
・令和 4 年度	89,227 人	903,891 千円	69,615 千円
・令和 5 年度	91,443 人 (4 月～6 月の実績)		
※平成 28 年度は、11 月～3 月までの 5 ヶ月間の実績)			
※部門別の比率 物販部門約 70%、飲食部門約 20%、総務部門約 10%			

〔防災道の駅としての取組み〕

道の駅「猪苗代」地域創生推進協議会の設立

※令和 3 年 11 月 5 日に設立

【趣旨】

防災道の駅の選定 (R3.6, 11) を契機に、道の駅「猪苗代」における自由な発想と地域の熱意の下で、防災拠点や交通拠点、地域活性化など更なる地域創生に向けた取組みを官民で詳細に検討する

○防災拠点、交通拠点、地域活性化の 3 部門について課題の整理・共有

○課題解決に向けた具体施策 (ハード・ソフト) 及び事業計画の検討

※詳細な検討等を行なうにあたり、各部門における専門性に鑑み、協議会に

ワーキンググループ (3 部門) を設置

①防災拠点 WG …… 広域的な防災拠点の在り方を検討

②交通拠点 WG …… ゲートウェイ機能強化の検討

③地域活性化 WG …… 観光・地域振興活性化の検討

※医療・防災産業創成協議会が民間主導プロジェクトで設立 (R3.4 月)

事務局：一般社団法人日本総合研究所

(本市に導入できること)

①BCP の作成は、県のアドバイスを受けながら作成

また、推奨ひな形がある

②道の駅「伊勢志摩」地域創生審議会の設立、コワーキンググループの設定し専門的に課題解決を進める

※各ワーキンググループには、県、地方整備局、市、運輸局、バス会社、タクシー会社、商工会、観光協会が中心メンバーとなる

③観光コンシェルジュの配置

④備蓄品倉庫の備蓄品の内容と数量の研究 (別紙参照)

※発電機などの動力は、ガス、石油も含めて考える

⑤ヘリポートの設置は必須である

(本市に導入した場合の課題)

・民間施設の協力 (協議)

・観光コンシェルジュはイメージが大切

(今後の検討)

・防災備蓄倉庫の規模が不足

(道の駅以外に備蓄庫を設け、同時にヘリポートも設けることを検討する)



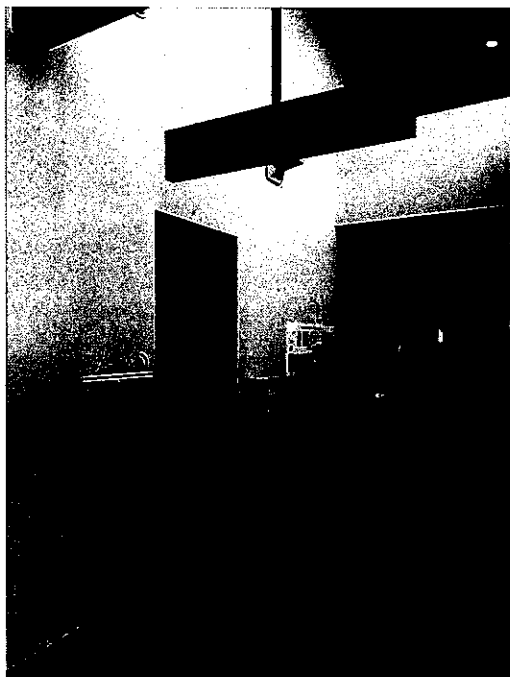
ワークショッフルーム、事務室、交流室が並ぶ



フレッシュな観光コンシェルジュ



猪苗代町は野口英世の出生地



館内トイレ、授乳室、シャワールーム



災害時には臨時役場となるワークショップルームにて研修



猪苗代町副議長と職員の皆さん



防災備蓄庫前にて



備蓄品一覧



備蓄品の数々を拝見



道の駅屋上にソーラー発電パネルを発見



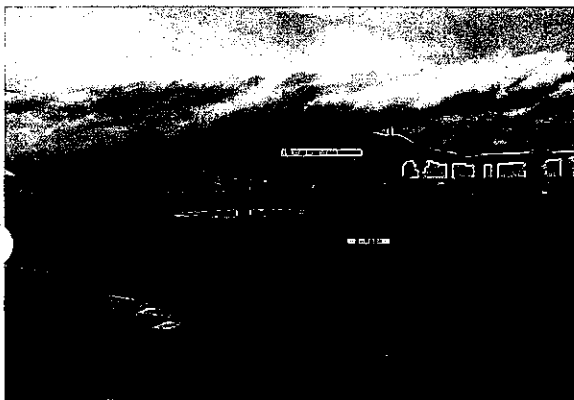
ヘリポート（背後には磐梯山）



防雪板



ドッグランもある

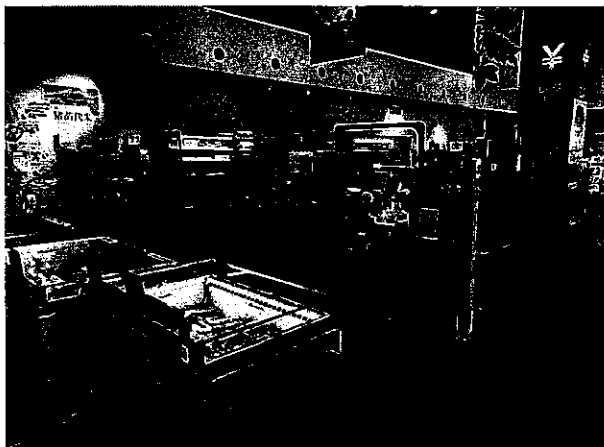


活火山の磐梯山

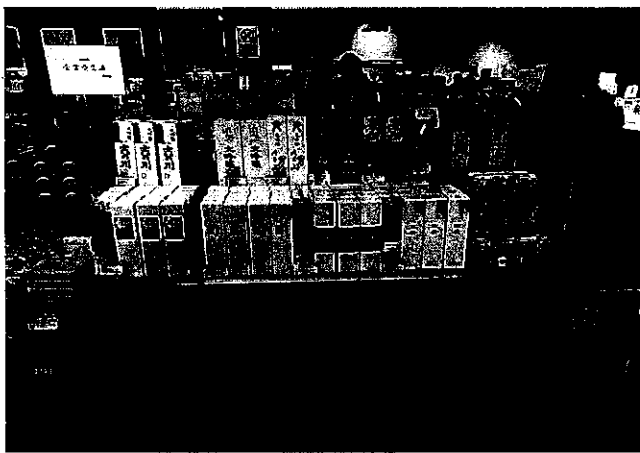


副議長を交え研修者一同

道の駅は、木造建築。木目が目に鮮やか。



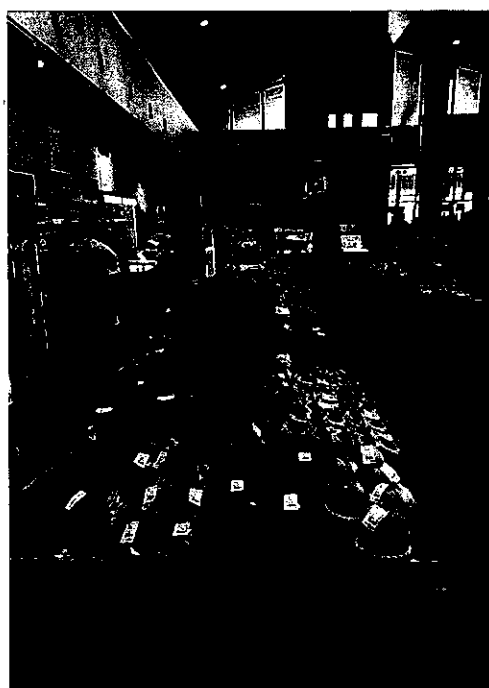
産直品売り場



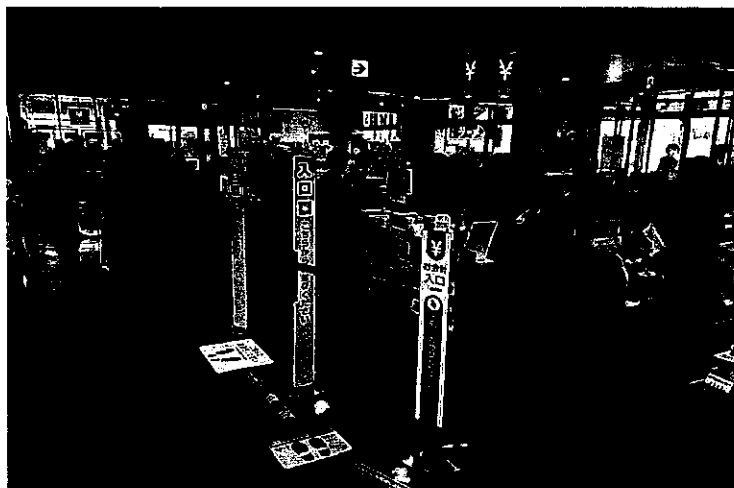
会津の酒蔵で醸される日本酒の数々、金賞受賞酒の多数



主要産業は農業、ブランド米もPRされている



産直品の数々



キャッシャーは並びやすい



調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和 5 年 11 月 17 日

志摩市議会議員 様

会 派 名	自由クラブ志摩	代表者氏名	前田 俊基
年 月 日	令和 5 年 10 月 25 日 (水) ～令和 5 年 10 月 26 日 (木)		
時 間	10 月 25 日 13 時 00 分 ～ 16 時 50 分 10 月 26 日 9 時 00 分 ～ 11 時 00 分		
参加者氏名	自由クラブ志摩：西崎甚吾、山下弘、井上幹夫、前田俊基 公明：渡辺友里夏 ※合同視察		
用 務 先	住 所	福岡県北九州市小倉北区浅野 3-8-1	
	名 称	西日本総合展示場 新館	
目的・内容	「第 18 回全国市議会議員会研究フォーラム in 北九州」に参加しました。 大テーマは「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」でした。 統一地方選挙の結果を検証し、改めて地方議会の課題を整理した上で、その解決に向けた今後の方向性を展望するとしたもので約 2400 名の参加でした。 10 月 25 日 (水) 第 1 部 基調講演「躍動的でワクワクする市議会に」 片山善博氏 (大正大学教授兼地域創造研究所所長) ・日本の地方議会に欠けていることは何か ⇒・公開の場の真剣な議論 ・税の議論 ・住民の声が聞こえない ・現行の議会の権限を活用してもっと積極的に取り込むべきこと ⇒・議案の裏を取って、もっと丁寧に議論する 第 2 部 パネルディスカッション「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」 コーディネーター 谷隆徳 (日本経済新聞編集委員) パネリスト 勢一智子 (西南学院大学法学部教授) 辻 陽 (近畿大学法学部教授) 濱田真理 (Stand By Women 代表他) 田仲常郎 (北九州市議会議員) 問題関心・人口減少社会の本格的到来が地域にもたらすもの ・住民自治の危機 ・地域社会の「鏡」としての地方議会とは		

- ・ 地方自治法改正の意義
- ・ 多様な人材の議会への参画
- ・ 議員のなり手不足問題における小規模自治体の課題
- ・ 議員のなり手不足問題における大規模自治体の課題
- ・ 地方議員に対するハラスメントの現状
 - ・ 議員活動や選挙活動中に受けたハラスメント
 - ・ 実際の被害
 - ・ 有権者からのハラスメント
- ・ 都道府県議会の主なハラスメント対策
- ・ ハラスメントに関する条例制定
- ・ 女性議員のハラスメント相談センター
- ・ 相談体制や議会内のルール作りが重要
- ・ 北九州市議会の取組み
 - ・ カフェトーク in 北九州
 - ・ ドリームサミット(中学生議会)
 - ・ 平和のまちスタディーツアー(議会等視察)
 - ・ 北九州市における議員立法
 - ・ 子ども基本条例検討会

第3部 意見交換会

10月26日(木)

第4部 課題討議「議員のなり手不足問題への取組み報告」

コーディネーター 江藤俊昭(大正大学社会共生学部公共政策学科教授)

事例報告者 辻 弘之(登別市議会議員)

たぞえ麻友(一般社団法人 WOMAN SHIFT 理事)

(目黒区議会議員)

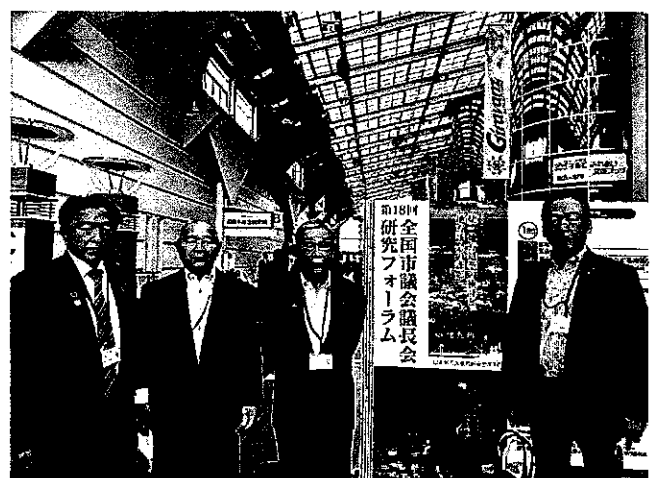
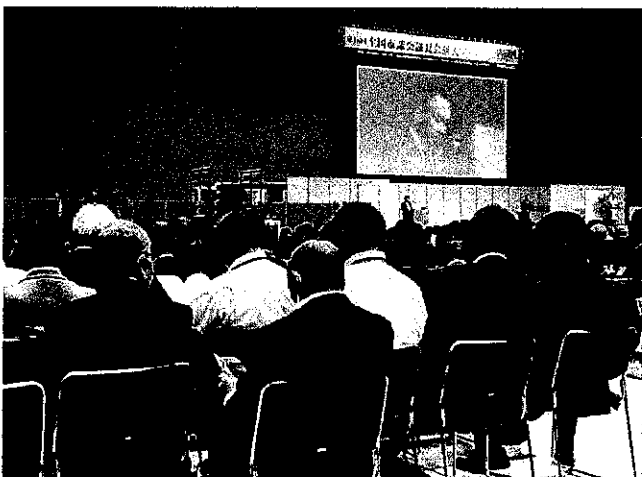
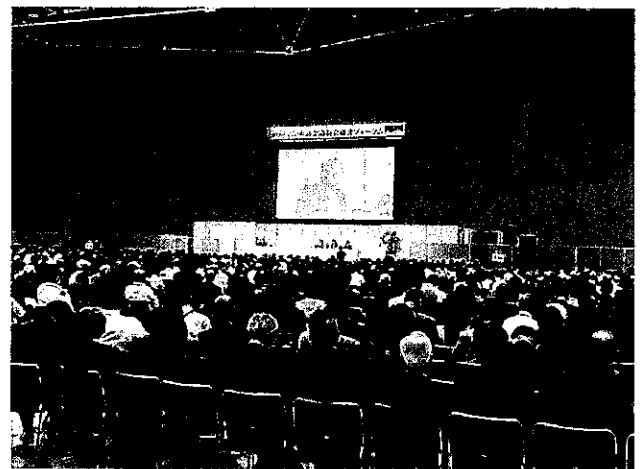
永野慶一郎(枕崎市議会議員)

- 課題
- ・ 議員のなり手不足は住民自治の劣化を招く
 - ・ 国政を侵食する草の民主主義の衰退
 - ・ 議会をめぐる議員のなり手不足の要因
 - ・ 議員のなり手不足の解消の打開策の前提
 - ・ 議員のなり手不足問題の正攻法と豊富化
 - ・ なり手不足解消の特効薬としての政治進出
 - ・ 現状における提言と法律改正の議論

(今後の検討)

人口減少や市の財政を理由に、安易な議員定数の削減や議員報酬削減をすることは将来の市議会の多様性や存続に大きく関わることが過去の事例において明らかであることが報告された。

志摩市においても同様な傾向にあることから、今後とも継続して調査研究する必要がある。



様式6

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書



2024年3月9日

志摩市議会議長 様

会 派 名	自由クラブ志摩	代表者氏名	前田俊基
年 月 日	2024年2月22日(木)		
時 間	10時00分～17時00分		
参加者氏名	前田俊基、西崎甚吾		
用 務 先	住 所	東京都豊島区東池袋 1-42-8	
	名 称	第一イン池袋	
目的・内容	目的:(株)広瀬行政研究所が主催するセミナーを受講し 「議員・職員のための 議会改革と効果的な予算・決算審議手法」を学ぶ 内容:10:00～13:00 数字で見る議会改革の効果検証と今後の方向性 14:00～17:00 効果的な予算・決算の審議手法を考える 場所:第一イン池袋 住所:東京都豊島区東池袋 1-42-8 主催者:(株)広瀬行政研究所 〒112-0011 東京都文京区千石 2-34-6 電話番号:03-6912-1930 F A X:03-6912-2280		

成果・所感	(研修受講内容) 10:00～13:00 『数字で見る議会改革の効果検証と今後の方向性』 1. 議会改革の目的とは 議会が有する機能、権限を強化・充実するため 2. 議会の権限と議会改革との関連性 議事機関、監視機関、立法機関、代表機関を機能 3. 数字で見る議会改革の検証 主要論点……政策立案機能の拡充、監視機能の強化、議員間討議、公聴会・参考人の活用。市民に開かれた、市民参加による議会か ① 実質の審議は委員会中心主義を採用していることから、委員会の原則公開及びインターネットによる生中継・録画中継、委員会会議録の公開と検索ができるように整備（協議会の場合も同様） ② 事務局職員の調査・方正機能を強化・充実 ③ タブレット導入に伴う質疑等における本会議場等のスクリーンへの映写（パネルのみでなく。スクリーンは移動式でもよい） 問題……事務局職員の負担になる ④ 議会報告会・意見交換会の開催が効果を上げているか ※少数のクレーマーの場合、労力のわりに公用が低い、参加者の低満足度 ⑤ 議会モニターやパブリックコメントの活用が十分でない。また、住民アンケート調査の実施がされていない。 ⑥ 専門的知見の活用（大学とのタイアップなど） 14:00～17:00 『効果的な予算・決算の審議手法を考える』 1. 予算決算とは 2. 予算に対する修正と限界 3. 予算修正の代替的手法 4. 予算・決算審議におけるPDCAサイクル 予算審議における留意点 ・ 目的……政治的機能、首長へのコントロール（住民が議会を通して首長をコントロールするためのもの）行政管理機能、経済的機能 ・ 予算審議手法……志摩市として検討できる手法として、総務産業常任委員会と教育厚生常任委員会を分科会として審査 ・ 予算決算常任委員会として求められる活動……所管事務調査（開会中）所管事務のうち必要と考える施策又は事業については調査を行なう必要あり 5. 効果的な予算・決算審議手法 行政評価・議員間討議等の活用 以上の内容について講義を受講した。 (本市に導入できること) ① 所管事務調査の分科会化……総務産業常任委員会、教育厚生常任委員会の専門的分野の調査に委嘱するパターンが今後検討されてもよい。 ② 議会選出監査委員にも決算審査の場において行政サイドに質疑が出来る。しかし、職務として監査をした一人として承認委員を押印した立場として、やはり相応しくないと考える。
--------------	---